＜速報※＞子育てについてのアンケート　集計結果

～地域子育て支援拠点・親と子のつどいの広場の利用と地域への関心・愛着との関係～

実施主体；横浜市地域子育て支援拠点/横浜市
研究協力：近本聡子（公財　生協総合研究所）堀聡子（東京福祉大学短期大学部）相馬直子（横浜国立大学）
実施期間；2017年12月、2018年1月、4月
対象；横浜市18区3歳児健診受診家庭
配布；4,875枚　　回収；3,956枚（回収率；81.1%）

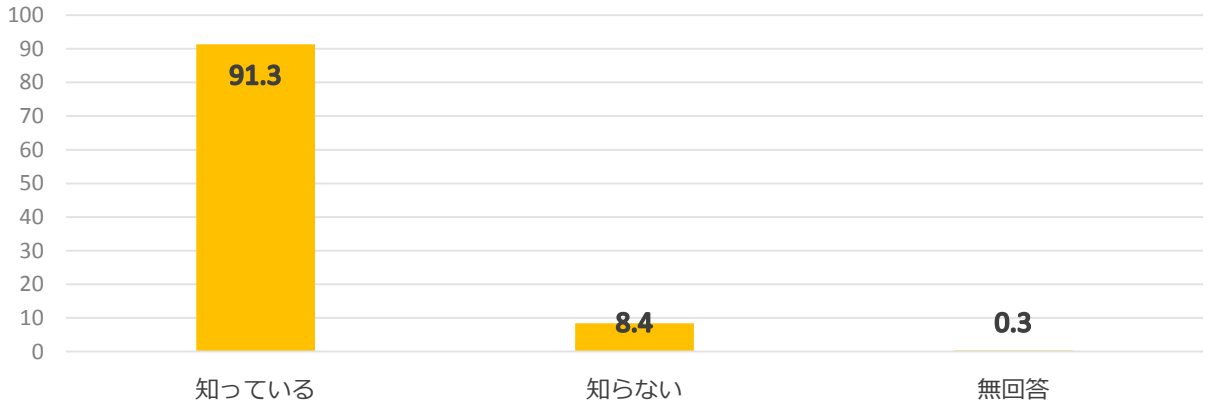
※今後別途報告書の作成・公表を予定しています

✓ 地域子育て支援拠点・親と子のつどいの広場を知っている人は91.3%

「地域子育て支援拠点・親と子のつどいの広場（以下、拠点・広場）を一つでも知っていますか？」という問いに91.3%の人が「知っている」と回答しました。

過去に横浜市で実施した同様の調査でも、知っている人の割合は大幅に上昇しています。乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問）などの、市や区の関連施策での継続的な広報活動により、着実に子育て家庭に知られる存在になってきていると考えられます。

拠点・広場認知度　（N＝3956）

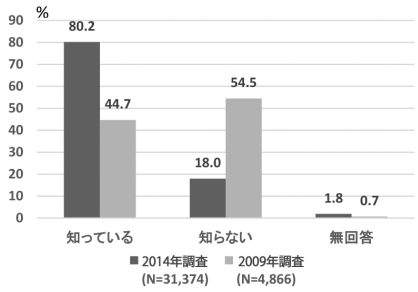


参考：横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査（2014年調査）

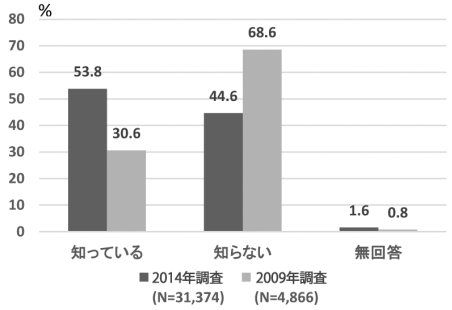
地域子育て支援拠点を知っている；44.7%（2009年度）→80.2%（2014年度）

親と子のつどいの広場を知っている；30.6%（2009年度）→53.8%（2014年度）

「地域子育て支援拠点」の周知（2009年・2014年の比較）



「親と子のつどいの広場」の周知（2009年・2014年の比較）



過去のニーズ調査からみても、知っている人の割合は徐々に増えているんだね。

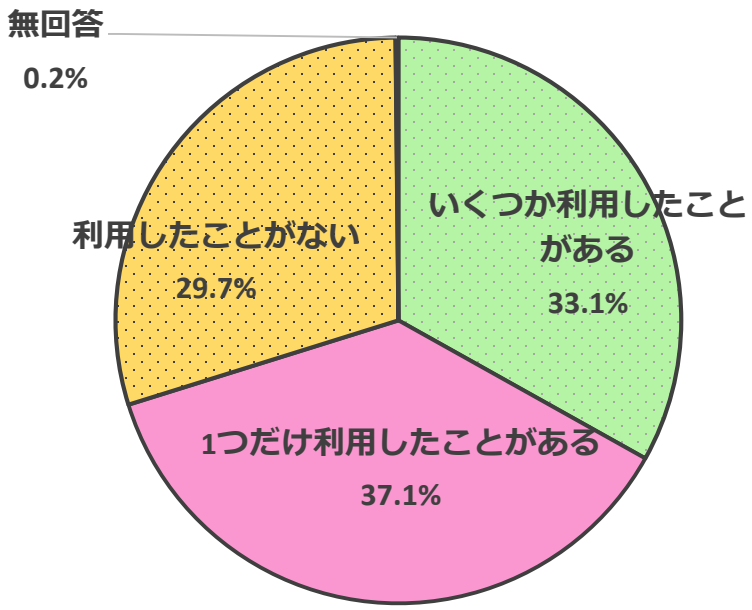
参考値
横浜市ニーズ調査（2014年実施）より　http://www.city.yokohama.lg.jp/kodomo/shien-new/data/needs/needs-02.pdf

✓ 実際に拠点・広場を利用したことがある人は　70.2%

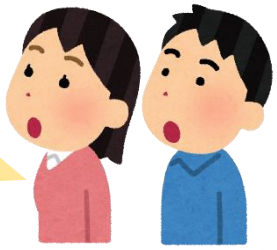
拠点・広場を「知っている」と回答した人のうち、「拠点や広場を実際に利用したことがありますか？」という問いに対しては、「いくつか利用したことがある（33.1%）」、「1つだけ利用したことがある（37.1%）」と、7割以上の人が拠点や広場に一度でも足を運んだことがあると回答しました。

また、いくつか利用したことがある人、1つだけ利用したことがある人、利用したことがない人がほぼ3割ずつという興味深い結果となりました。

拠点・広場利用経験（N＝3612）



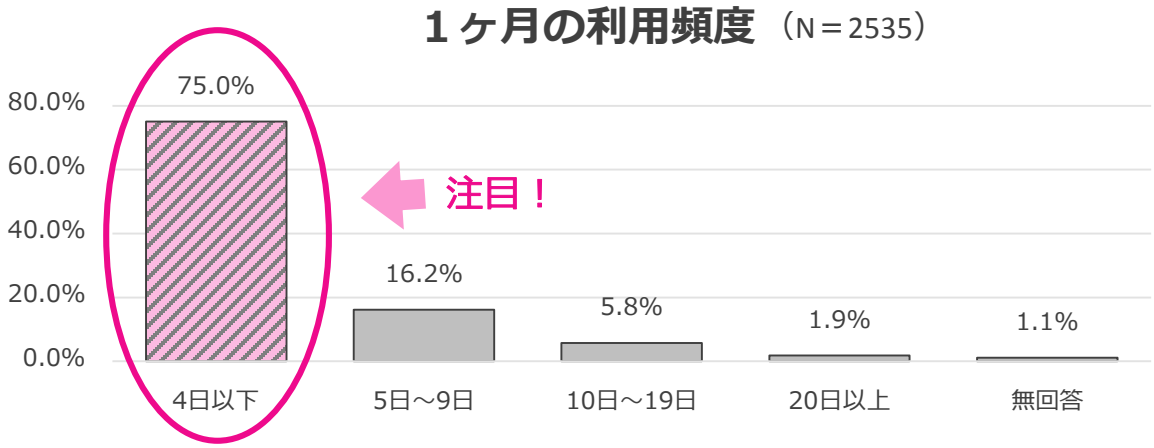
拠点・広場は、どこでも同じってことはなく、場の雰囲気やつくり、開催されているイベント等、拠点・広場それぞれに独自性の高い特徴があるから、気に入った1つの場に通い続ける親子もいれば、目的や通いやすさなどで利用する場を使い分ける親子もいるのかもしれないね。

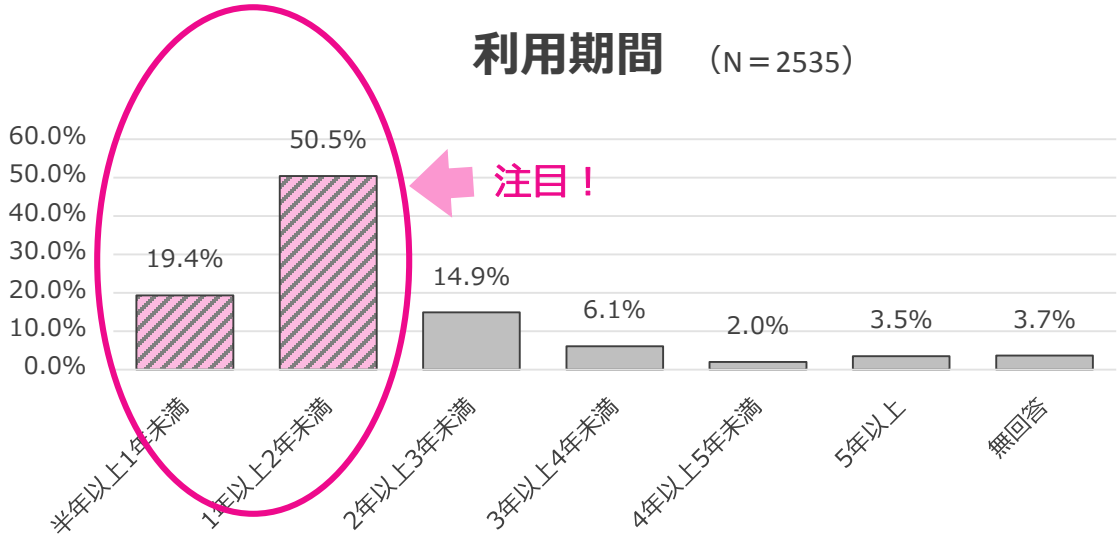


拠点・広場を利用したことがない親子や、1つだけを利用する親子、いくつかを利用する親子、それぞれのニーズに応じたひろばづくりが求められるね。
また、利用したいと思っているのに利用できない親子がいるなら、拠点や広場に来てもらうために何ができるか考えることも大事だね。

✓ 利用頻度は“月4日以下”、利用期間は ”2年未満” の人が大半　スタッフと利用者の、新たな出会いの連続

拠点・広場を「利用したことがある」と回答した人のうち、拠点や広場の利用頻度についてたずねたところ、75.0%の人が月4日以下の利用でした。また、利用期間に関しては、利用者全体の69.9%が2年未満の利用（19.9%は1年未満の利用）でした。参考までに、子ども一人のみ家庭（827人）に限ると、80.3%が2年未満の利用でした。





拠点や広場で日々親子と接している実感と比べて利用期間も頻度も少ない印象があるけど、これが実際なんだね。

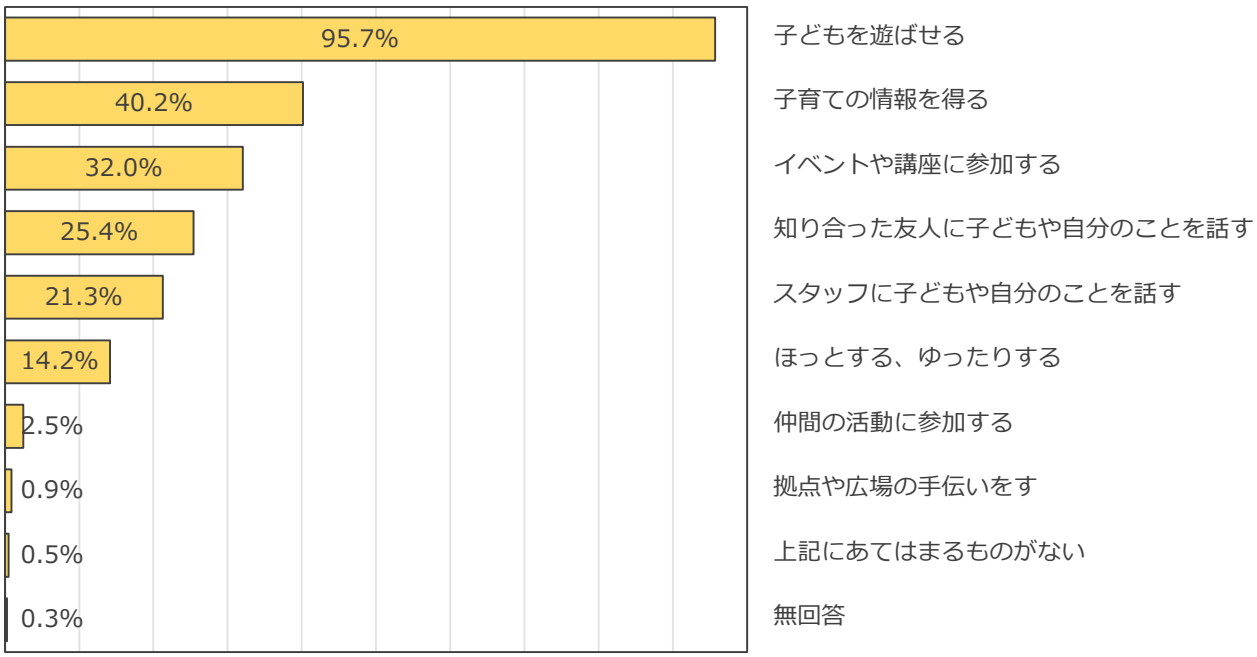
常連として利用する人が多いと思われているかもしれないけど、そうでもないってことだね。新しく来館する人も、あまり不安に思わず来てもらいたいね。

スタッフは、毎日、違う親子と違う会話をする機会が多くなっているってことだね。

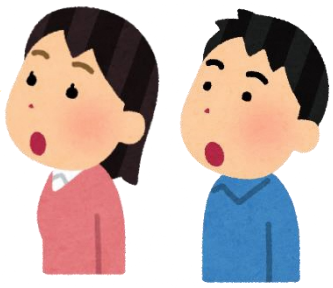
✓ 利用目的は“子どもを遊ばせる”だけではない “子育ての情報を得る”ため

拠点・広場を「利用したことがある」と回答した人のうち、「拠点や広場をどのように利用していましたか？」という問い（複数回答）に対しては、「子どもを遊ばせる（95.7%）」に続き、「子育ての情報を得る（40.2%）」が2番目に多く、以下「イベントや講座に参加する（30.0%）」「知り合った友人に子どもや自分のことを話す（25.4%）」「スタッフに子どもや自分のことを話す（21.3%）」となりました。

利用の目的（複数回答）（N＝2535）



インターネットを介した子育て情報が増えているけど、拠点・広場に直接来ることで、自分の知りたい情報や、そこでしか得られない口コミを得たい、という期待があるのかもしれないね。



スタッフには、溢れる子育て情報の中から、それぞれの利用者のニーズに合わせた情報を選んで伝えることが求められるね。

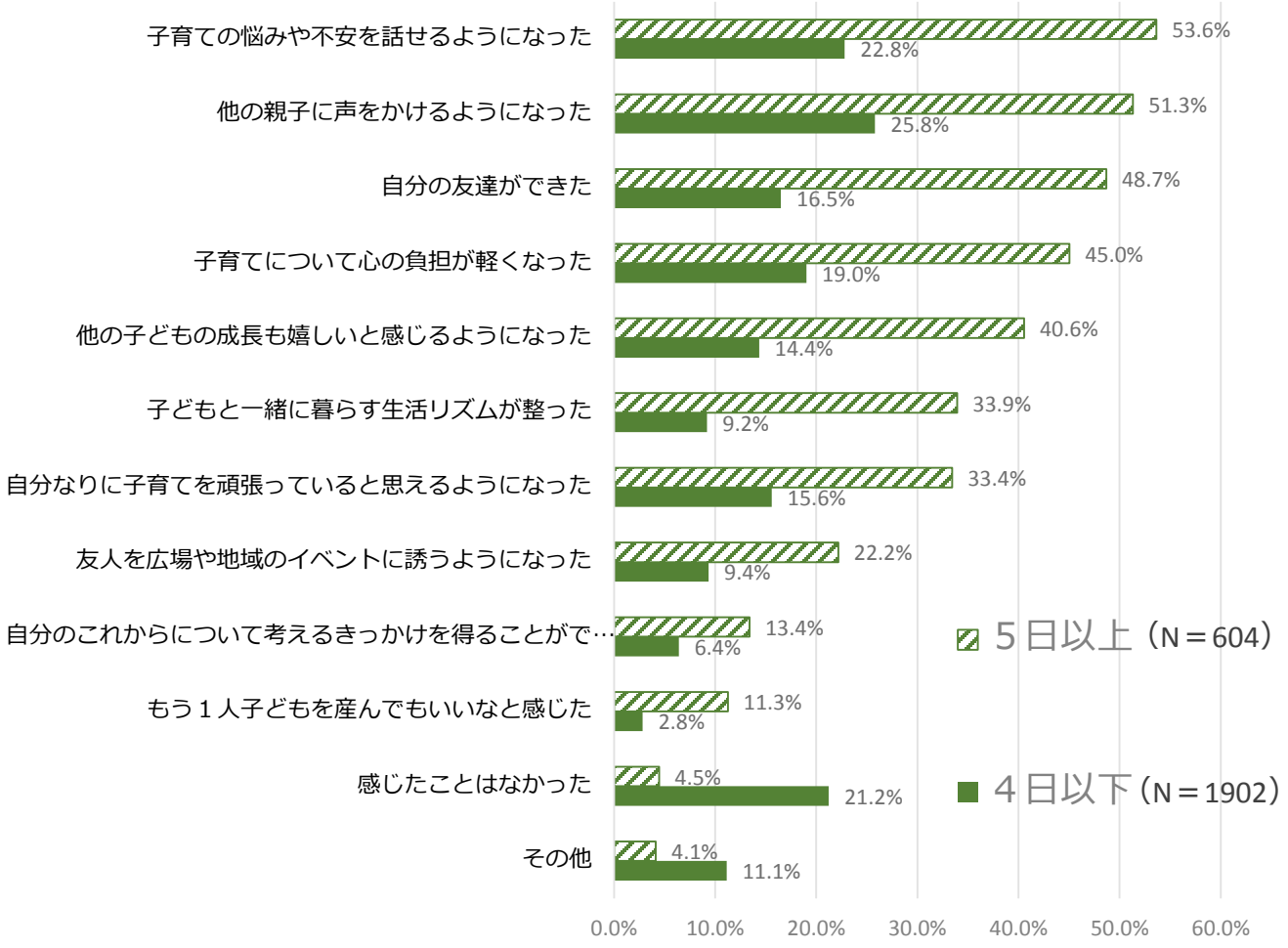
✓ 拠点・広場を一定頻度利用することで、子育てに対しての心境や行動の変化が起きやすい

拠点・広場を「利用したことがある」と回答した人のうち、「拠点や広場を利用して何か感じたことや変わったことはありますか」という問い（複数回答）に対しては、利用頻度によって結果に差がありました。

利用頻度の比較的少ない層（月4日以下）については、「他の親子に声をかけるようになった（25.8%）」「子育ての悩みや不安を話せるようになった（22.8%）」と1/4程度の人がそうした変化を感じていました。

一方、利用頻度の比較的多い層（月5日以上）については、それぞれ同じ項目で「子育ての悩みや不安を話せるようになった（53.6%）」「他の親子に声をかけるようになった（51.3%）」と、半数を超える人が子育てに対する変化を感じていました。

利用を通して感じたこと変わったこと（１ヶ月の利用頻度別）



拠点や広場をある程度の頻度で利用することで
心境や行動の変化が出てくるのかもしれないね。

✓ 拠点・広場の利用頻度が、地域との関わりに対する親の気持ちに変化を与えている

「子育てを通して変わったところはありますか？」という問いに対しては、拠点・広場の利用有無と頻度によって結果に差がありました。

子育てを通した親の変化を確認した15の設問項目について、その内容により、「Ａ；地域との関わり（に関する変化）」「Ｂ；他者との関わり（に関する変化）」「Ｃ；仕事や趣味への考え方（に関する変化）」の3つに分けました。

その結果、「Ａ；地域との関わり」の項目は、いずれも、拠点・広場を利用したことがないよりもあるほうが、利用したことがある人の中でも月4日以下の利用よりも、月5日以上の利用のほうが、変化を感じている回答の割合が高くなりました。

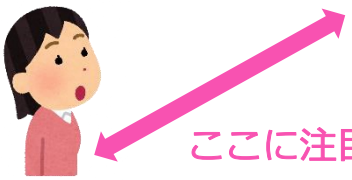
次のページの注目ポイントです！！

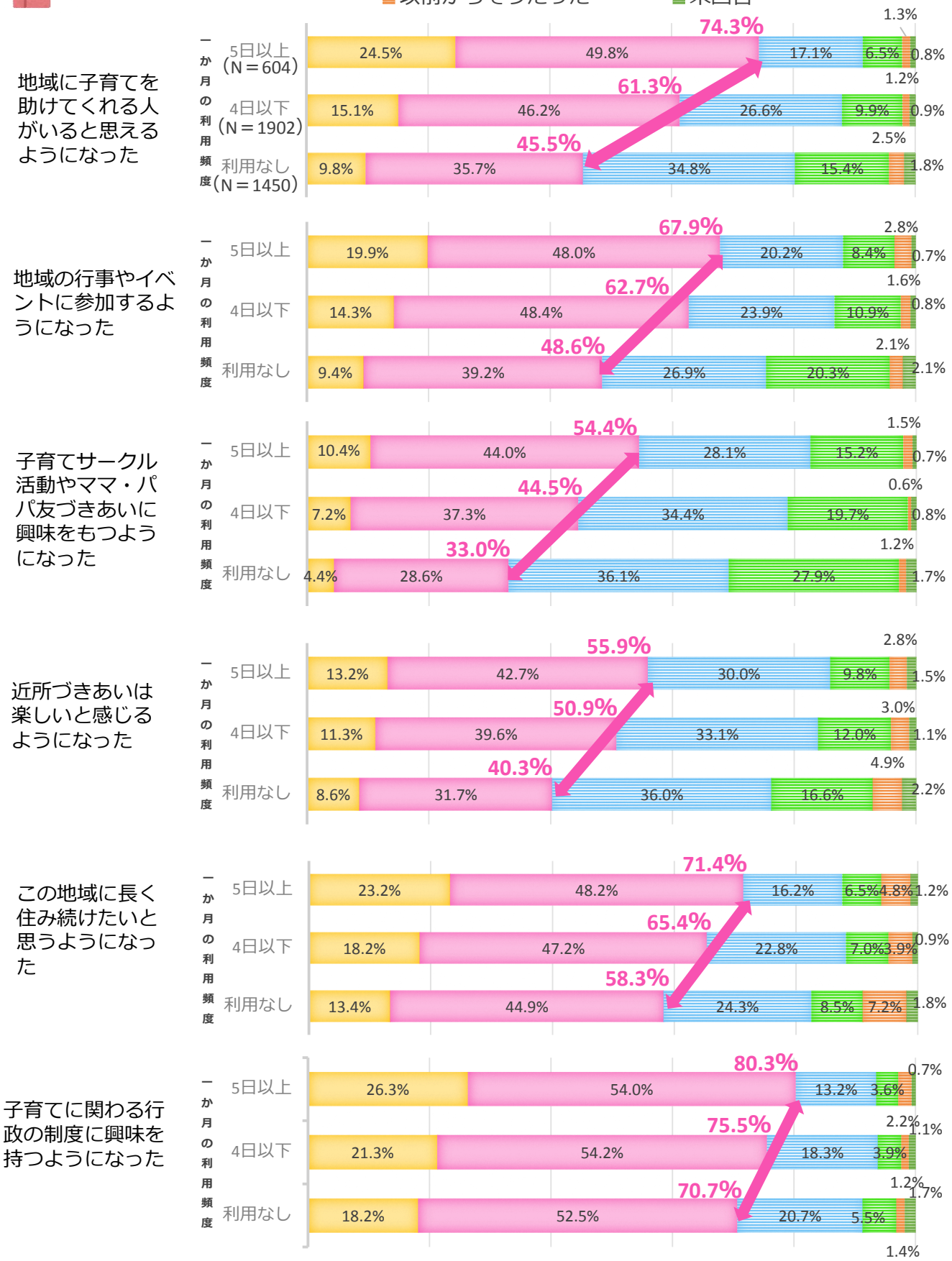
一方で、ＢとＣについてはＡと比較し、拠点・広場の利用頻度による差はみられませんでした。

拠点や広場は、地域への関心や愛着を高める大事な場所なんだね。

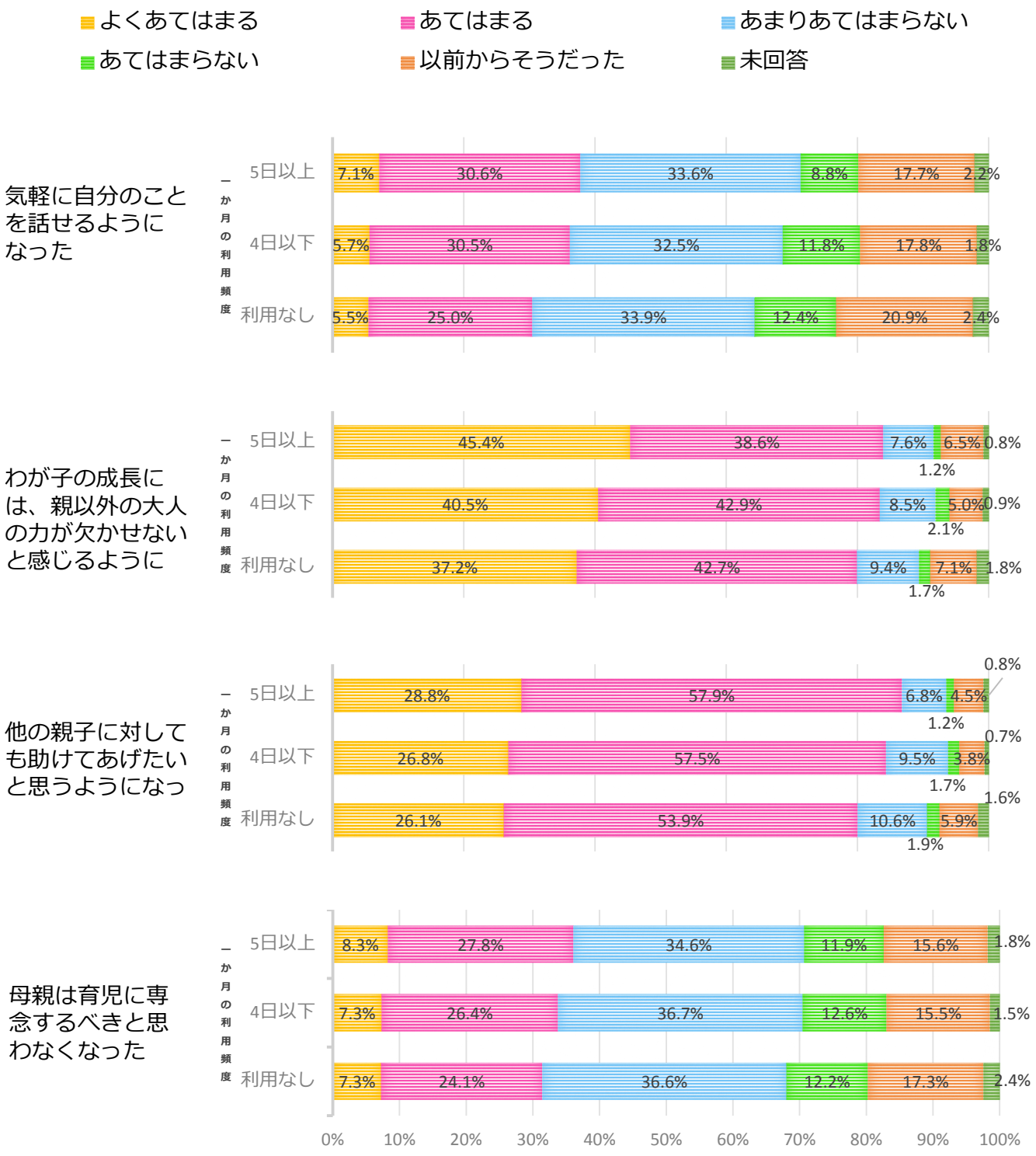
子どもが乳幼児期に拠点・広場を一定頻度利用した人は、拠点や広場の中だけじゃなく、自分たちが住む地域に対しても、気持ちの変化がみられるね。子育てを通して、地域との関わりに目を向けたり、親同士の支えあいの大事さを感じとっていく場にもなっているのかもしれないね

子育てを通して変わったところ
（A：地域との関わり）

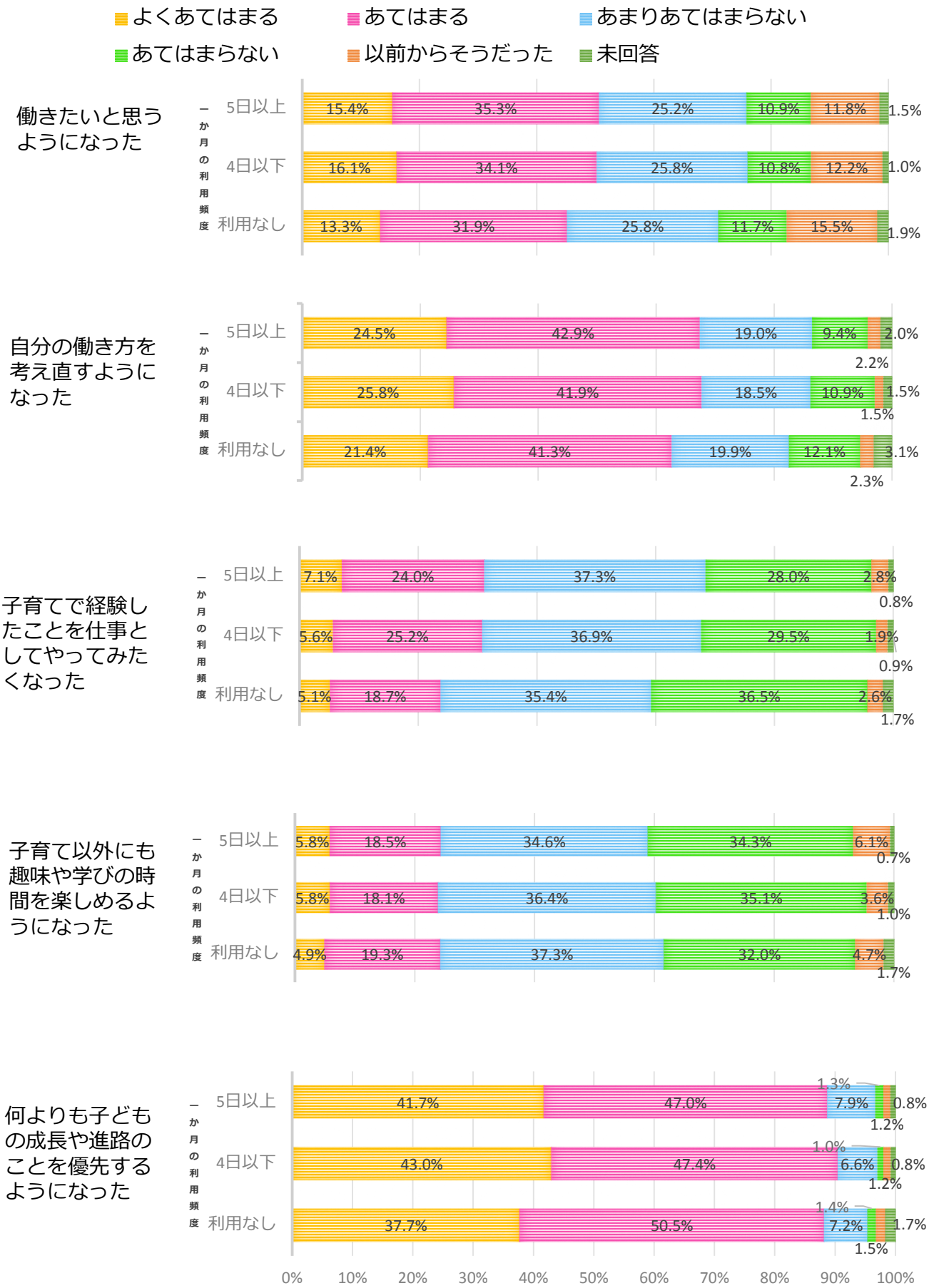




子育てを通して変わったところ
（Ｂ：他者との関わり）



子育てを通して変わったところ
（C：仕事や趣味への考え方）

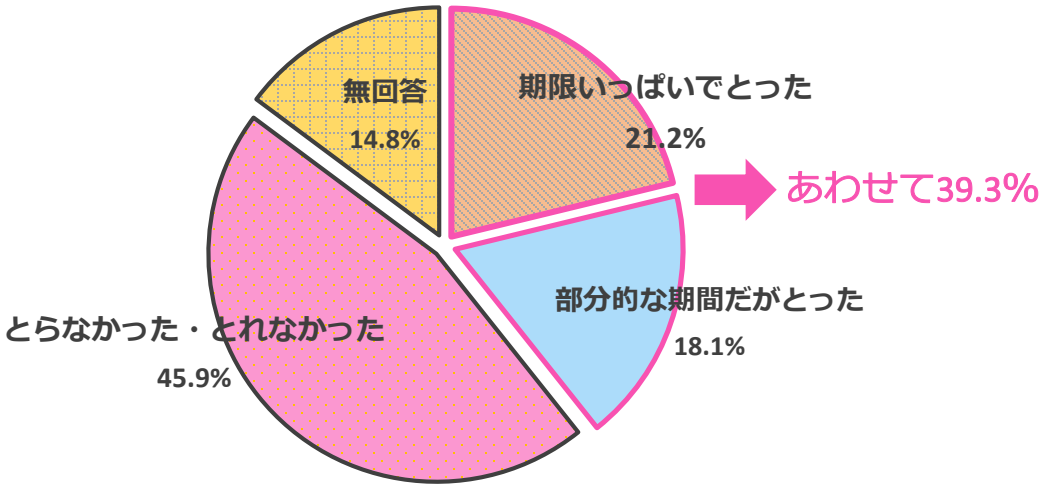


✓ 育児休業（以下、育休）を通じた親の心境と、拠点・広場に求められる視点

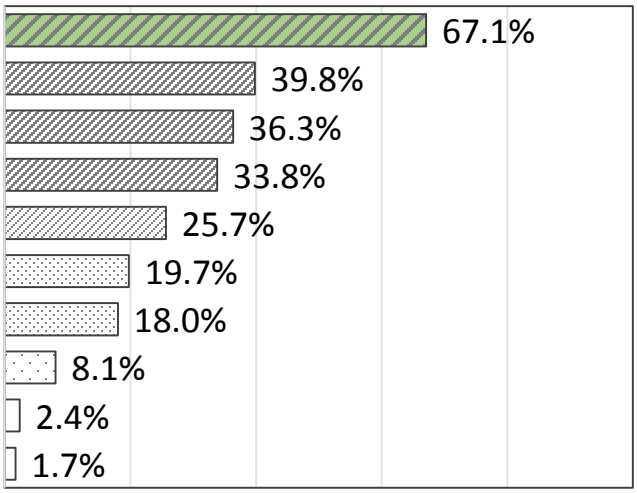
「本日健診の３歳の子どもについて育児休業（休暇）をとったか」の問いに対しては、39.3%が「取得した」（うち、「期限いっぱいでとった　21.2%」「部分的な期間だがとった　18.1%」）と回答しました。「取得した」と回答した人のうち、「育休後のあなたのお気持ちについて教えてください」という問い（複数回答）に対しては、大半の人が「子どもとの時間を楽しむことができた（67.1%）」と回答しました。

一方で、「復帰後の仕事のことが気になった（39.8%）」「もう少し長く休みたかった（36.3%）」が続き、育休を満足に過ごせたと感じられないまま復職時期をむかえている人も一定数いました。さらに、「保育園等の預け先探しに追われていて大変だった（25.7%）」と、1/4程度の親にとって、保育園探しが育休中の大きな心配事になっていることも懸念される結果となりました。

育児休業（休暇）の取得（N＝3956）



育児休業後の自分の気持ち（複数回答）



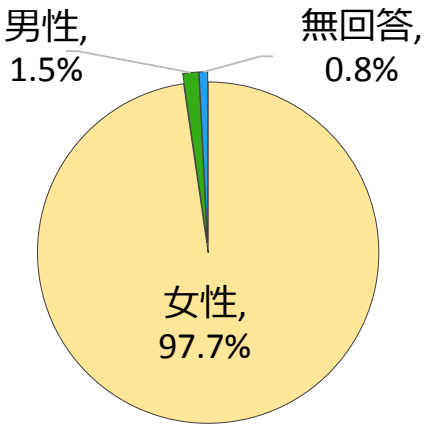
（N＝1555）

子どもとの時間を楽しむことができた
復帰後の仕事のことが気になった
もう少し長く休みたかった
休むことができた
保育園等の預け先探しに追われていて大変だった
新たな子育て仲間、友人関係を得るまでにはいかなかった
新たな近所付き合いの関係を得るまでにはいかなかった
早く復帰したかった
あてはまるものはない
無回答

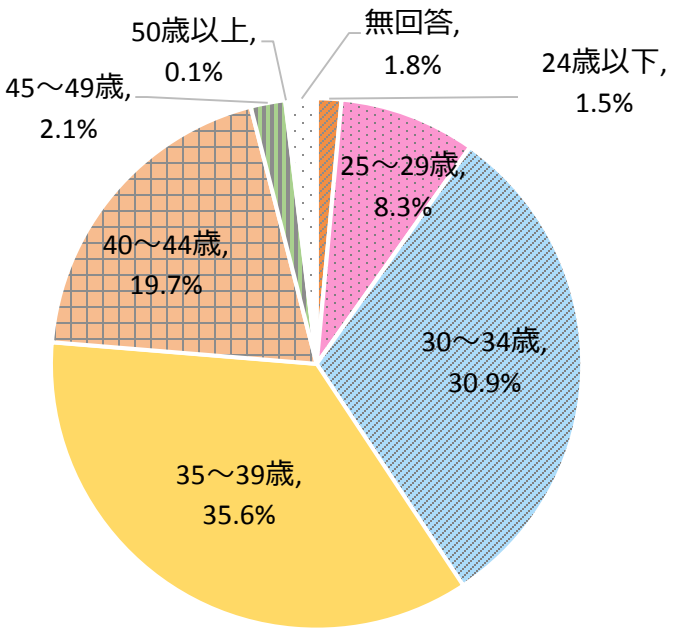
復帰後のことや、保育園探しが育休中の大きな心配事になっているんだね。
スタッフはその心配に寄り添いながらも、地域や他の人との関わりに目を向けられるよう支えていけるといいね。

● 回答者のプロフィール（年齢・性別・居住年数・家族構成）（N＝3956）

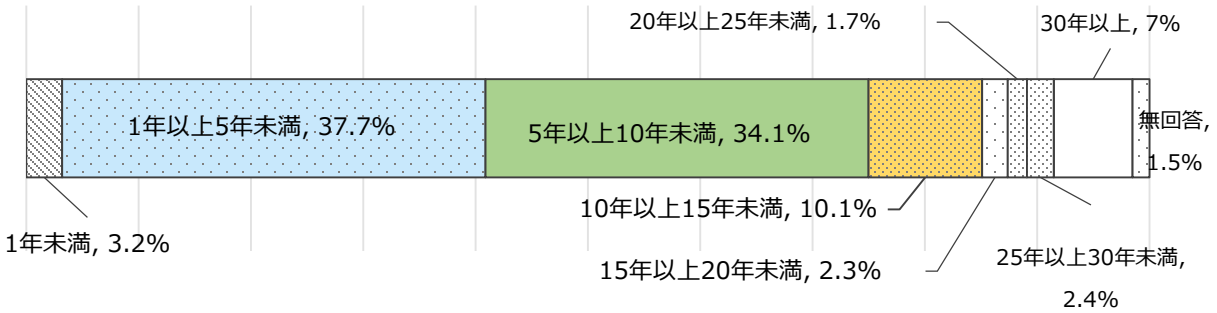
性別



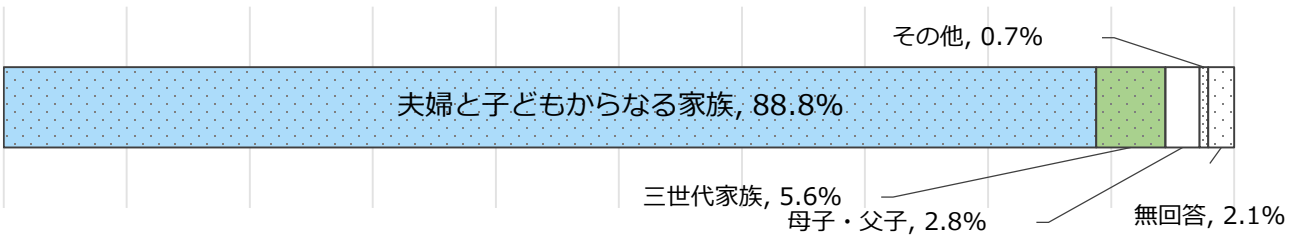
年齢



現在の居住区での居住年数

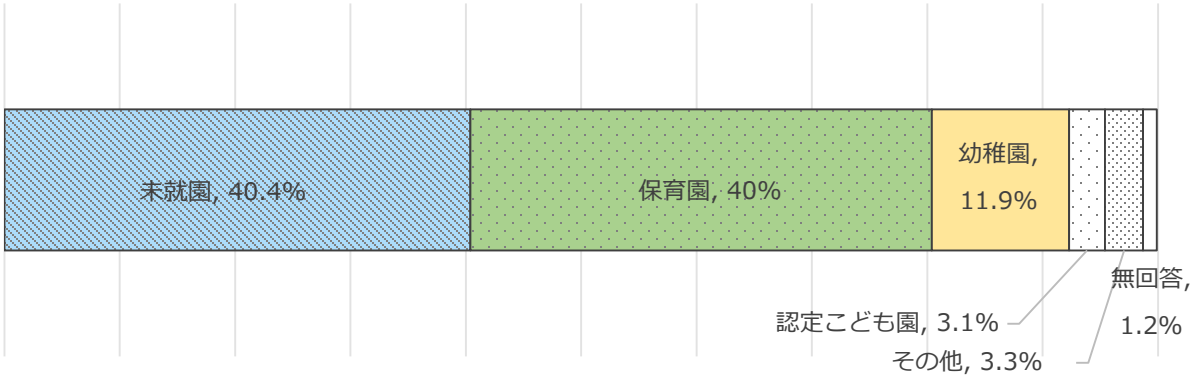


家族構成

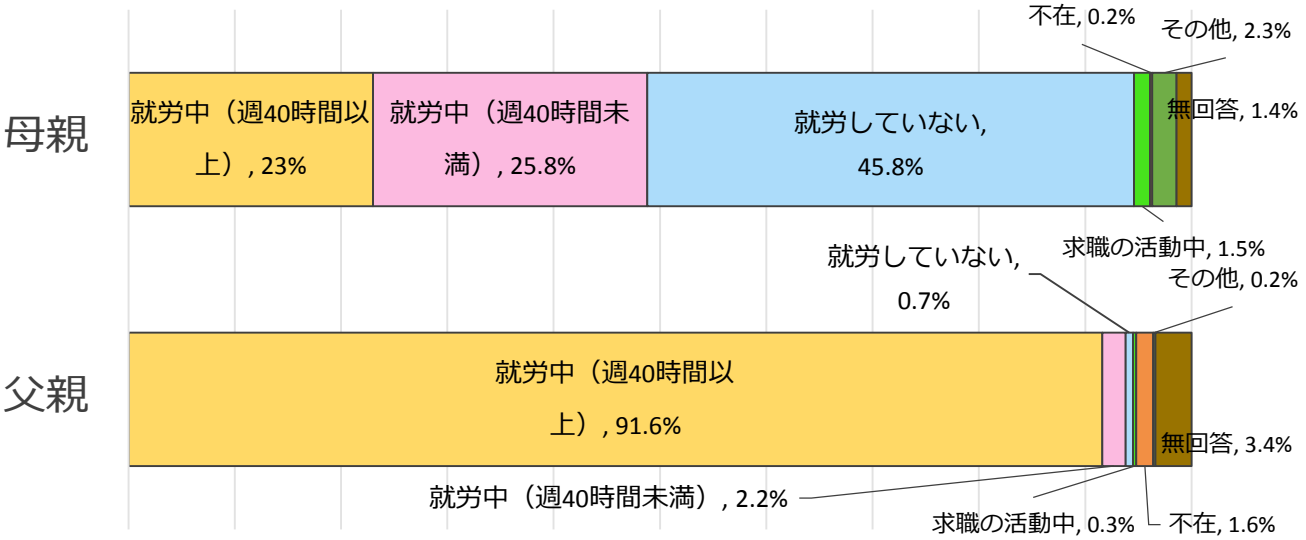


● 回答者のプロフィール（N=3956）

３歳児健診受診のお子さんの就園状況



親の就労状況

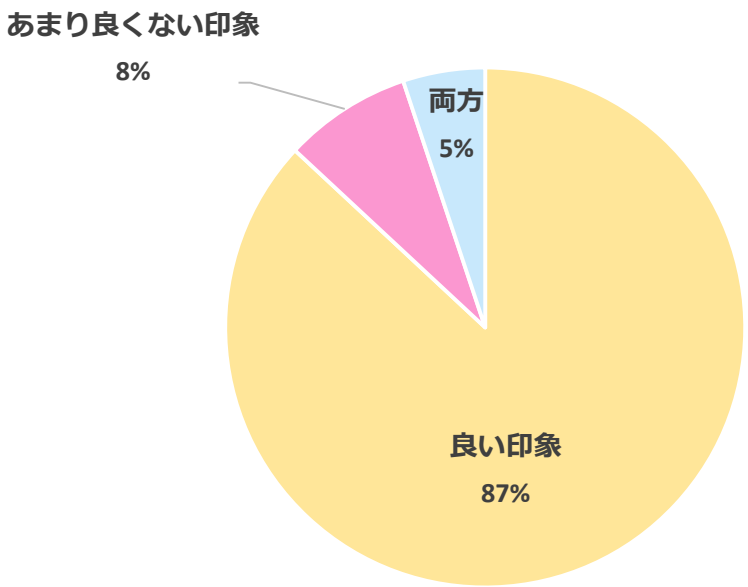


✓ 子育てを通じた地域の人との印象に残るエピソードは 87% が良い印象の内容

「子育てを通して地域の人と関わったことで印象に残っていることはありますか」という問い（自由記述）について、その記述内容を詳しく分析したところ、興味深い結果が出ました。エピソードの内容から、受けた印象／エピソードの対象／内容に分類しました。また内容についてはさらに良い印象/良くない印象に分類し数値化しました。

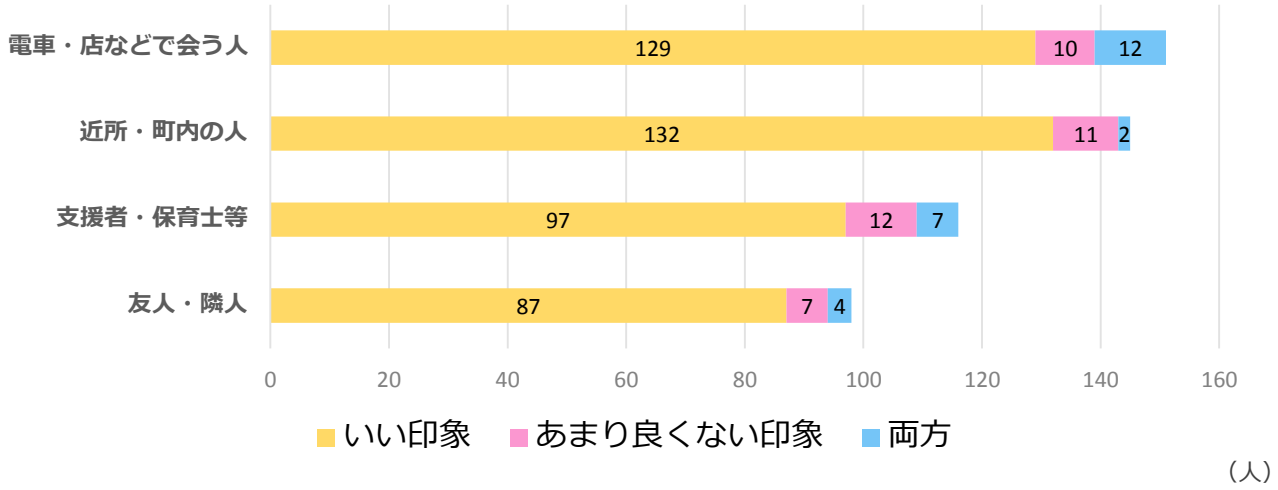
【受けた印象】については87%が「嬉しかった」「頑張ろうと思った」と、良い印象の内容が書かれていました。

受けた印象について（N=528）

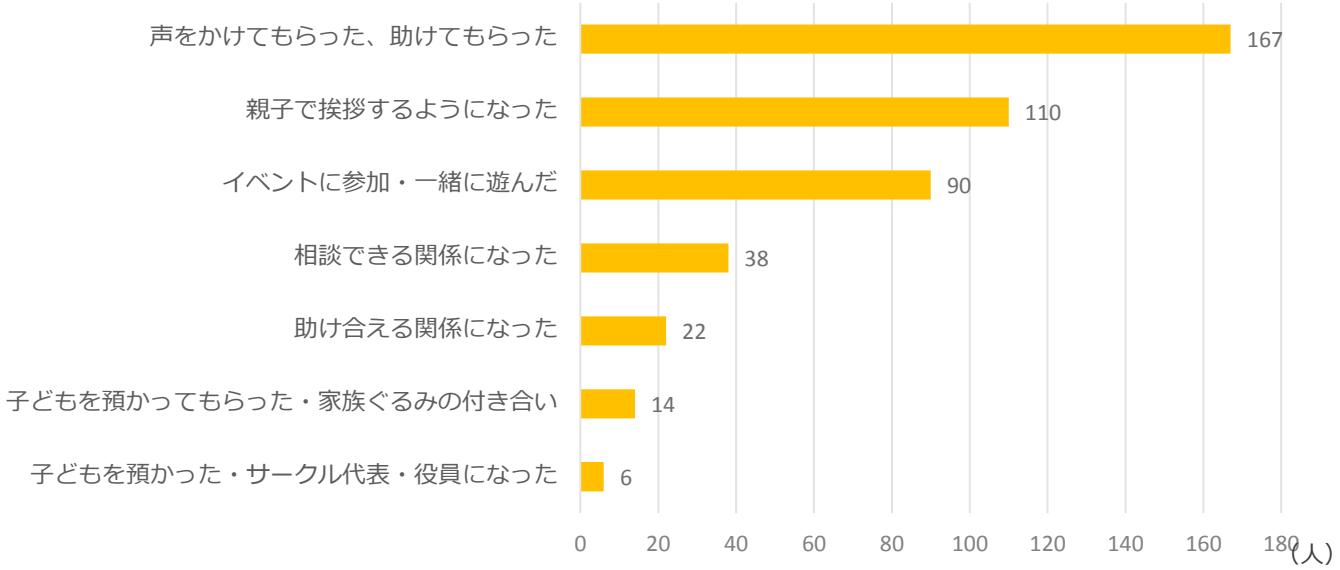


見ず知らずの人に挨拶や励ましてもらう等「声をかけてもらった」人が167名と多く見受けられ、また子育てをきっかけに近所の人やお店の人と挨拶をする機会が増えたと答えた人が多くいました。

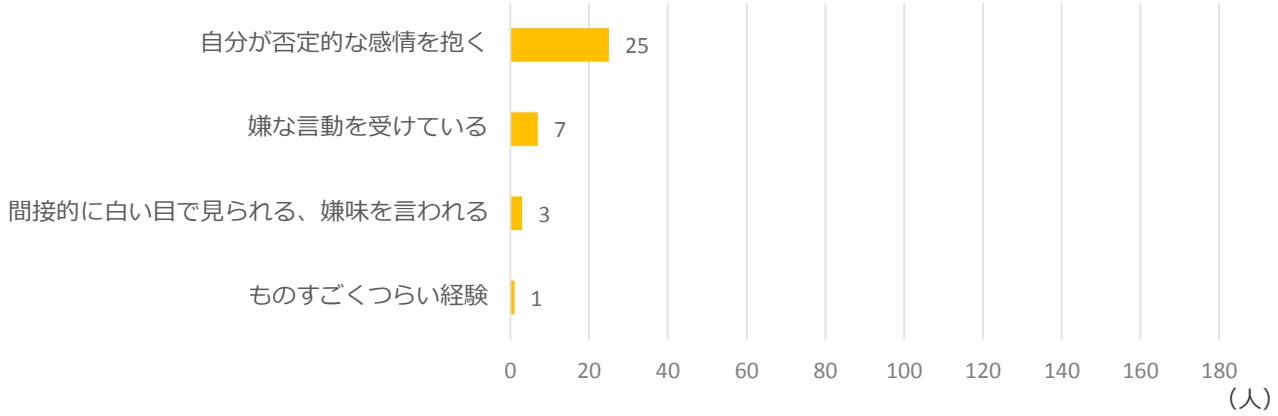
エピソードの対象



エピソードの内容（良い印象）



エピソードの内容（良くない印象）



2019
4.21
Sun

これからの地域の子育て支援をRe（リ）デザインする

研究者と共に「子育てについてのアンケート調査」から見えた居場所の価値

参加費	無料
定　員	280名
日　時	平成31年4月21日(日) 9時45分～13時(開場 9時30分)
場　所	横浜市社会福祉センター4階ホール(横浜市中区桜木町1-1)
対　象	地域子育て支援拠点・親と子のつどいの広場関係者、保育園幼稚園関係者、行政、他関心のある人

2017年12月～2018年4月、横浜市の協力により18区3歳児健診時にアンケート調査を実施しました。(回収枚数3956枚、回収率81.1％)　これまでにも増して支え合いが求められる日本社会で、「地域ケアの根っこと土壌づくりが生涯にわたり、とても大事なものになる」という仮説に基づき、「地域子育て支援は地域社会性を高める上でどういう役割を果たしているのか」という目的で調査・検討を進めてきました。
アンケート調査の報告と共に、後半のRe・デザインタイムでは、これからのひろばの可能性と未来をとことん語り合います。

講演会のお申込み
お問い合わせ

https://kokucheese.com/event/index/558002/
受付期間: 2019年3月12日(火)～ 先着順 280名

主催:よこはま地域子育て支援拠点ネットワーク　後援:横浜市こども青少年局(申請中)

概　要

受付期間: 2019年3月12日(火)～先着順
開催日時: 2019年4月21日(日)
9:30 open / 9:45 start - 13:00 close
場　　所: 横浜市健康福祉総合センター内 横浜市社会福祉センター 4階ホール
参 加 費: 無料
定　　員: 280名
主　　催: よこはま地域子育て支援拠点ネットワーク
後　　援: 横浜市こども青年局(申請中)

会場地図 JR京浜東北・根岸線 横浜市営地下鉄桜木町駅下車。
野毛地下道をお進みの場合は、出口西をご利用ください。
車での来館はご遠慮ください。

プログラム

1 あいさつ　荒木田 百合副市長

2 子育てひろばは地域に繋がる入り口
～横浜市3歳児健診における「子育てについてのアンケート」調査結果から～
・港北区地域子育て支援拠点 どろっぷ　勝山 幸

3 子育てのプラットホームとしての子育てひろばの役割
～学童期の子どもを持つ親へのインタビュー調査から～
・東京福祉大学短期大学部こども学科　堀 聡子

……15 分 休 憩……

4 Re・デザインタイム　ナビゲーター: 原 美紀
これからのひろばの可能性と未来を語るデザイナーの皆さん
・地域子育て支援拠点から　大槻 智子
・親と子のつどいの広場から　金子 真澄
・ひろば利用者代表　真鍋 考士
・横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授　相馬 直子
・横浜市こども青少年局より

講演会のお申込み・お問い合わせ
https://kokucheese.com/event/index/558002/
受付期間: 2019年3月12日(火)～先着順 280名

よこはま地域子育て支援拠点ネットワークとは?
(通称:拠点ネット)

2011年に横浜市すべての区に地域子育て支援拠点が設置されたことをきっかけに市域で共通する課題を皆で解決する為に勉強会等をスタート。2014年、利用者支援事業が拠点に導入されることから、「こうあってほしい利用者支援事業」フォーラムを開催。これから始まる利用者支援事業への提案を行った。このフォーラム開催をきっかけに18区の施設長を中心とした「よこはま地域子育て支援拠点ネットワーク」を立ち上げた。「自分たちが学びあい相談できる環境づくり」「拠点事業の目的を叶えるための自主的な場づくり」を目的に結成された。今後は、拠点だけにとどまらず、広く横浜の子育て支援を考えていく会に発展させていきたいと考えている。

Information

生協総研レポート　No.89　2019年3月刊

「子育て支援の効果の見える化と可能性～～横浜市３歳児健診時における養育者調査をベースにした研究報告～～」

横浜市の3歳児健診を機会に、子育て支援(特に地域子育て支援拠点事業)について、6000人の養育者へお願いした調査を中心に、インタビュー調査や制度解説を踏まえて、多角的に子育て支援について研究をした報告書ができました。回収率8割超の精度の高い調査です。今後の支援の可能性を議論するベースに是非ご利用ください。

※講演会へのお申し込み、お問い合わせは上記または表面に記載しております。

レポートのお申し込み・お問い合わせ

メール、FAX、お電話にて承ります。

e-mail ccij@jccu.coop　FAX 03-5216-6030　TEL 03-5216-6025

公益財団法人生協総合研究所　(中村範子　近本聡子)

メールタイトルに「総研レポート89号購入希望」といれてくださいますと幸いです。

以下の内容をお知らせください。

書籍名、号数、冊数、お名前・ご住所(送付先)・お電話番号・メールアドレス

必要でしたら請求書の宛名や書式の希望など。

送料を含めた代金、お支払い方法をご連絡します。

通常は刊行物のご送付に振込票同封です。

なお、お支払いは、郵便振替用紙による振込みか、銀行口座への振込みです。

また、団体でまとめて買って下さると1冊あたり送料が安くなります。